

March 24, 2020

【前日の為替概況】ドル円、ダウ平均の下落を受けて 111.59 円まで続伸

23日のニューヨーク外国為替市場でドル円は5日続伸。終値は111.23円と前営業日NY終値(110.93円)と比べて30銭程度のドル高水準。米連邦準備理事会(FRB)が無制限の量的緩和策を導入すると発表したことを受けて全般ドル売りが先行すると一時109.83円付近まで下げたものの、アジア時間に付けた日通し安値109.67円がサポートされると持ち直した。新型コロナウイルス感染拡大による金融市場の動揺を背景に金融機関や企業が保有資産を売却して現金としてドルを積み上げる動きは根強く、この日もドル高が進みやすい状況だった。一時111.59円と2月24日以来の高値を付けた。ダウ平均は米経済対策の議会承認難航が嫌気されて一時960ドル超下げる場面があった。

FRBは、緊急米連邦公開市場委員会(FOMC)を開き、新型コロナへの対応として、無制限の量的緩和(QE)を行う方針を決めた。米国債や住宅ローン担保証券(MBS)を必要なだけ買い取る。声明では「新型コロナによる衛生危機に伴い、経済が深刻な混乱に直面することが明白になってきた」としたうえで、「市場の円滑な機能への支援や経済・金融情勢全般に対する金融政策の効果的な波及を促す」と表明した。また、学生ローンやクレジットカードローン、中小企業向け政府保証融資などに関する新制度も導入する。

ユーロドルは5営業日ぶりに反発。終値は1.0726ドルと前営業日NY終値(1.0688ドル)と比べて0.0038ドル程度のユーロ高水準。FRBの無制限的緩和でユーロ買い・ドル売りが優勢となり、一時1.0828ドルと日通し高値を付けたものの、前週末の高値1.0831ドルを上抜けることは出来なかった。新型コロナの世界的な感染拡大への不安を背景とした「資産の現金化」によるドル買いが再燃し、1.0720ドル付近まで押し戻された。

ユーロ円は3日続伸。終値は119.31円と前営業日NY終値(118.53円)と比べて78銭程度のユーロ高水準。日本時間夕刻に117.73円まで下落したものの、欧米市場では119.94円まで反発した。

ポンドドルは軟調。市場では「ドルや円などと比べて流動性が低いためリスク回避目的の売りが出やすい」との声が聞かれる中、一時1.1447ドルと日通し安値を付けたものの、前週末に付けた1985年3月以来約35年ぶりの安値である1.1412ドルを下抜けることは出来なかった。ジョンソン英首相は会見で「英国全体を3週間以上ロックダウン(都市封鎖)する」と表明したものの、相場の反応は限られた。

【本日の東京為替見通し】ドル円、ダウ平均の下落を受けたドル資金確保で堅調推移か

本日の東京市場のドル円は、ダウ平均の下落を受けたドル資金確保の動きが継続していることで堅調推移が予想される。

ダウ平均は、米上院で緊急景気対策法案が可決されなかったことで、18213.65ドルまで下落し、2016年11月以来の安値18591.93ドル(-582.05ドル)で引けた。

ドル資金の争奪戦の背景としては、世界的な資産市場の下落を受けたマージン・コール(追証)発生によるドル需要(先週時点で約12兆ドル)や四半期末に向けたドル建て債務の借り換えによる「ドル・クラッシュ(ドル不足)」などが挙げられている。ドル・クラッシュは、米連邦準備理事会(FRB)による5中銀へのドル資金供給や無制限の量的緩和策などを受けて鎮静化すると思われるが、ニューヨーク株式市場が続落する限り、マージン・コール(追証)によるドル需要はおさまらないことで、ドル買い要因となっている。

2016年11月9日、ドナルド・トランプ氏が米国の第45代大統領に選出された日のダウ平均の安値は18252.55ドルだった。ダウ平均は、トランプ米大統領の経済政策「トランプノミクス」により、2020年2月12日には史上最高値29568.57ドルまで上昇した。しかし、ダウ平均は、新型コロナウイルス「COVID-19」のパンデミック(世界的大流行)を受けて、3月23日に18213.65ドルまで下落(▲11354.92ドル・38%)しており、ほぼ全値戻しとなった。

米国の過去の弱気相場では、高値からの下落率は平均で38%、元の水準に戻るまでは平均で2年4か月かかっているが、下落率はほぼ達成している。しかし、過去の弱気相場では、約80%の確率でリセッション(景気後退)入りとなっており、ダウ平均は下値を模索する動きが警戒され、マージン・コールによるドル需要も継続する可能性に要警戒か。

ドル円の上値を抑える要因としては、FRBによる無制限の量的緩和、3月期末決算に向けた本邦勢のレパトリエーション(国外滞留資金の本国環流)などが挙げられる。

【本日の重要指標】 ※時刻表示は日本時間

<国内>

○14:00 ◇ 1月景気動向指数改定値

<海外>

○17:15 ◎ 3月仏製造業購買担当者景気指数（PMI）速報値（予想：40.0）

○17:15 ◎ 3月仏サービス部門 PMI 速報値（予想：42.0）

○17:30 ◎ 3月独製造業 PMI 速報値（予想：39.6）

○17:30 ◎ 3月独サービス部門 PMI 速報値（予想：42.3）

○18:00 ◎ 3月ユーロ圏製造業 PMI 速報値（予想：39.0）

○18:00 ◎ 3月ユーロ圏サービス部門 PMI 速報値（予想：39.0）

○18:30 ◎ 3月英製造業 PMI 速報値（予想：45.0）

○18:30 ◎ 3月英サービス部門 PMI 速報値（予想：45.0）

○21:00 ◎ 1月ブラジル小売売上高指数（予想：前年同月比 2.2%）

○22:45 ◎ 3月米製造業 PMI 速報値（予想：42.8）

○22:45 ◎ 3月米サービス部門 PMI 速報値（予想：42.0）

○22:45 ◎ 3月米総合 PMI 速報値

○23:00 ☆ 2月米新築住宅販売件数（予想：前月比▲2.0%/75.0万件）

○23:00 ◎ 3月米リッチモンド連銀製造業景気指数（予想：▲15）

○25日 02:00 ◎ 米財務省、2年債入札

○先進7カ国（G7）外相テレビ会議

※「予想」は特に記載のない限り市場予想平均を表す。▲はマイナス。

※重要度、高は☆、中は◎、低◇とする。

【前日までの要人発言】

23 日 06:25 ブラード米セントルイス連銀総裁
「米 GDP は第 2 四半期に-50%となる可能性」
「米失業率は第 2 四半期に 30%まで上昇する可能性」

23 日 07:26 トランプ米大統領
「新型肺炎(Chinese Virus)に対抗するためのあらゆる資源を集める」
「ウイルスへの勝利は予想よりも早期となろう」

23 日 08:28 カシカリ米ミネアポリス連銀総裁
「米国は最低でも軽微のリセッションとなるだろう」
「銀行は需要に見合うキャッシュを保有している」

23 日 09:12 安倍首相
「東京五輪、完全な形で実施が困難な場合は延期の判断を行わざるを得ない」

23 日 10:01 アーダーン NZ 首相
「全国的に自主隔離に移行する」
「必需以外のサービスを閉鎖する。スーパーマーケットや病院は開く」

23 日 15:20 ビスコ伊中銀総裁
「金融市場の良好な機能を確保するためであれば、必要なあらゆることを行う」

23 日 21:05 米連邦準備理事会(FRB)
「必要に応じ無制限の政府機関系モーゲージ債(MBS)購入を行う」
「定期資産担保ローンファシリティ(TALF)を設立」

23 日 21:58 ムニューシン米財務長官
「景気刺激策の合意は非常に近い」
「景気刺激策は今日にも必要」

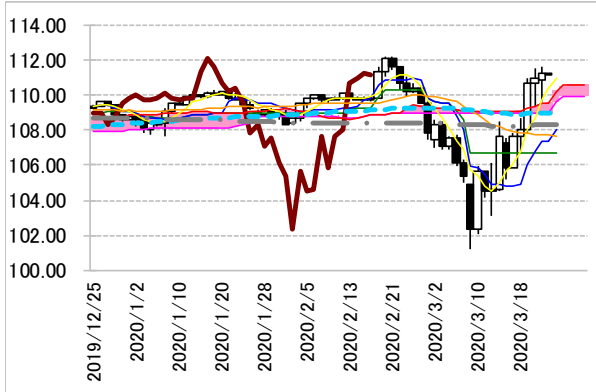
24 日 00:41 独首相報道官
「メルケル独首相の 1 回目の新型コロナウイルス検査の結果は陰性」

24 日 02:04 国際通貨基金(IMF)
「世界経済は今年縮小する見通し。2021 年は回復を見込む」

24 日 05:44 ジョンソン英首相
「英国全体を 3 週間以上ロックダウン(都市封鎖)」

※時間は日本時間

〔日足一目均衡表分析〕

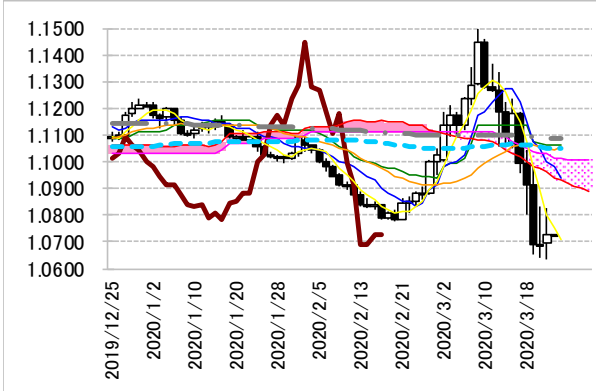


<ドル円=雲の上限を支持に押し目買いスタンス>

陽線引け。一目・転換線は基準線を上回り、遅行スパンは実線を上回り、一目・雲の上で引けていることで、三役好転の強い買いシグナルが点灯している。毛抜き天井（112.23円・112.19円）を上抜けることが出来るか否かに要注目か。

本日は、雲の上限を支持に押し目買いスタンスで臨み、同線を下抜けた場合は手仕舞い。

レジスタンス 2	112.40(2019/4/24 高値)
レジスタンス 1	112.23(2/20 高値)
前日終値	111.23
サポート 1	109.57(日足一目均衡表・雲の上限)
サポート 2	108.97(日足一目均衡表・雲の下限)

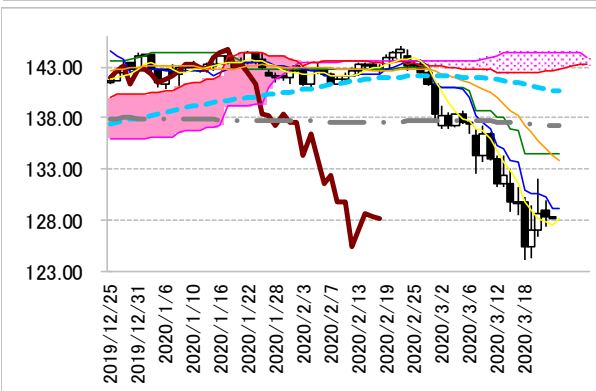


<ユーロドル=3/20 高値を抵抗に戻り売りスタンス>

陽線引け。一目・転換線は一目・基準線を下回り、遅行スパンは実線を下回り、一目・雲の下で引けていることで、三役逆転の強い売りシグナルが点灯している。2017年4月窓を下抜けており、下落トレンド継続の可能性が示唆されている。

本日は、3月20日の高値を抵抗に戻り売りスタンスで臨み、同水準を上抜けた場合は手仕舞い。

レジスタンス 1	1.0831(3/20 高値)
前日終値	1.0726
サポート 1	1.0636(3/23 安値)

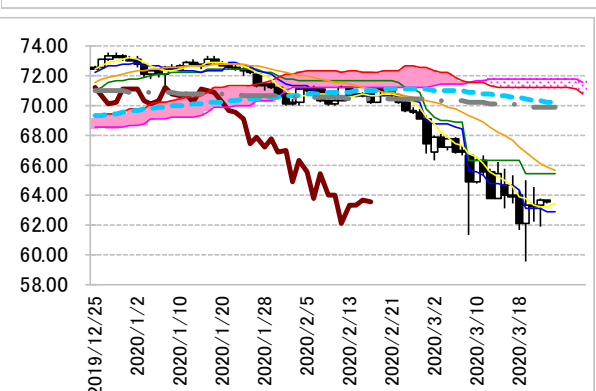


<ポンド円=転換線を抵抗に戻り売りスタンス>

陰線引け。一目・転換線は一目・基準線を下回り、遅行スパンは実線を下回り、一目・雲の下で引けていることで、三役逆転の強い売りシグナルが点灯している。2手連続陽線で反発したものの、被せ線で反落しており、続落の可能性が示唆されている。

本日は、転換線を抵抗に戻り売りスタンスで臨み、同線を上抜けた場合は手仕舞い。

レジスタンス 1	129.21(日足一目均衡表・転換線)
前日終値	128.39
サポート 1	127.36(3/23 安値)



<NZドル円=基準線を抵抗に戻り売りスタンス>

陽線引け。一目・転換線は一目・基準線を下回り、遅行スパンは実線を下回り、一目・雲の下で引けていることで、三役逆転の強い売りシグナルが点灯している。底値圏で3手連続陽線で反発したものの、3月18日の陰線を上回ることが出来なかったことで、下げ三法による反落の可能性が示唆されている。

本日は、基準線を抵抗に戻り売りスタンスで臨み、同線を上抜けた場合は手仕舞い。

レジスタンス 1	65.35(日足一目均衡表・基準線)
前日終値	63.65
サポート 1	61.80(3/23 安値)

